

平成29年度川崎市岡本太郎美術館  
事業報告・評価書

川崎市岡本太郎美術館

## 目次

### 1. 展覧会事業

#### (1) 企画展

- ①「岡本太郎×建築—衝突と協同のダイナミズム」展・・・・・・・・・・1
- ②「岡本太郎と遊ぶ PLAY with TARO」展・・・・・・・・・・3
- ③「岡本太郎とメディア・アート 山口勝弘—受け継がれるもの」展・・・・・・・・5
- ④「第21回岡本太郎現代芸術賞」展・・・・・・・・・・7

#### (2) 常設展

- ①「岡本太郎—赤の衝動—」展・・・・・・・・・・9
- ②「岡本太郎と巴里」展・・・・・・・・・・10
- ③「敏子さん、岡本太郎のこと教えて。」展・・・・・・・・・・11

#### (3) パフォーマンス・・・・・・・・・・13

#### (4) 学術（外部）活動・・・・・・・・・・15

### 2. 資料収集・整理、調査研究・・・・・・・・・・17

### 3. 作品の保存・修復、貸出・・・・・・・・・・18

### 4. 普及企画・・・・・・・・・・19

### 5. 広報活動・・・・・・・・・・26

### 6. 施設・設備の整備・・・・・・・・・・27

## 平成29年度事業報告について

### 1. 展覧会事業

#### (1) 企画展

#### 29年度事業報告

事業名	① 「岡本太郎×建築—衝突と協同のダイナミズム」展
会期	2017年4月22日(土)～7月2日(日)
目標	1964年、アジアで初めてのオリンピック開催にわきたつ東京。丹下健三の名作である国立代々木競技場は、吊り構造の屋根をもったダイナミックな美しい造形で、この祭典の象徴となった建築でした。この競技場のために、岡本太郎は色鮮やかな陶板レリーフのシリーズを制作しています。壁画やモニュメントを数多くのこした岡本ですが、それらは親しく交流した建築家たちとの関係から生まれたものが少なくありません。本展は、日本が大きく飛躍した時代、共に「伝統」と「創造」について議論し、旅の中に発見し、都市と時代を見つめた岡本太郎と建築家たちの交流に焦点をあて、建築と美術の協働のかたちについて再検証する試みです。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡本太郎と交流の深かった建築家、坂倉準三、丹下健三、磯崎新、アントニン・レーモンドらとのコラボレーションに焦点を当て、会場構成設計を建築家の藤原徹平氏に依頼し、展示全体を7章で構成しました。</li> <li>・展覧会図録は、会場写真の掲載も含めたため、会期に少し遅れるかたちで刊行しました。</li> <li>・関連イベントとして、子供向けワークショップ「まちをつくろう ぼくらのいこい島」(5/5-6)、現役の建築家らによるレクチャーシリーズ(①鈴木了二 ②青木淳 ③中山英之 ④名和晃平)を開催のほか、関連映像の上映、担当学芸員によるギャラリートークなども行いました。</li> </ul>

#### 内部評価(自己点検)

##### [実施状況・成果等]

岡本太郎と建築家たちとの関係性を示す資料として、図面や建築模型などを多く展示したこともあり、通常の客層とは異なる建築学科の学生や関係者が多く来館され、特にレクチャーシリーズの出席者は圧倒的に建築関係者の割合が高く、ほぼ毎回予約が定員まで達したことも印象的だった。

図録は学生にも手に届く価格設定とし、内容的にも好評だったことから一部は一般書店での販売も行い、会期最終日に完売した。WEB媒体のメディアでの反応が良く、CASA ブルートラスオンラインを始め、主要な建築デザインサイトで掲載されたことが、関心の深い来館者への集客につながったと思われる。

##### [課題・反省等]

本展は多くの企業や関係者、関係機関のご協力のなかで実現できたものだが、会場設計で協賛して頂いた企業の中に、過去に関係者との問題があった企業があり、最終段階になってそれが判明したことによっていくつかの混乱が生じた。美術館連絡協議会との共催事業であり、他館からの巡回希望の申し入れもあったが、そうした理由により巡回を断念したため、事前の情報共有をより密にして展覧会準備を進めるべきであった。

#### [外部評価] 意見(評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

- ・展示構成もわかりやすく、全体から建築と岡本太郎の関係性が浮かび上がる構成となっていた。
- ・建築の専門家を中心に、見る人みんなに発見がある展覧会。青山の自宅の屋根のカーブまで紹介されていたが、当時としてはきわめて斬新なものだったろう。アントニン・

**評定**  
**A**

レーモンドのための浴室のデザインは、岡本太郎が建築に馴染みのいいアーティストであることを証明している、絶好の作例ではなかろうか。

・個人的には建築図面を読みとるのに慣れていないので、印象が薄いところがあった。しかし多くの建築志望の若者を呼び込んだことは多面体太郎をアピールして良かった。建築家と美術家との個人的なネットワークによる協同作業の原型がここにあると感じた。やがてこの動きがパブリックアートへ連動してゆくことになるのだが。太郎にとって芸術は無用な爆発だが、それでも常に社会性を考えていたことが感じられた。

・岡本太郎から伸び出るさまざまなつながりの中から「建築」というテーマを選び、アートの近接領域との積極的なコラボレーションを行った、意欲的な企画。岡本太郎の多面性を伝えるとともに、新たな来館者層を獲得したことを高く評価。

2  
29年度事業報告

事業名	② 「岡本太郎と遊ぶ PLAY with TARO」展
会期	2017年7月15日(土)～10月15日(日)
目標	<p>岡本太郎は「遊び」について、『遊び』と『お遊び』とは全然違う。『遊び』は真剣な、全人間的な、つまり命のすべてをぶつけての無償の行為だ。」と語っています。岡本にとって「遊び」とは、自分自身の芸術活動そのものだったともいえるでしょう。岡本が命のすべてをぶつけて生み出した作品と、その作品に向き合う私たちも、真剣に遊んでみませんか。</p> <p>本展では、「岡本太郎と遊ぶ」をキーワードに、岡本の作品を紹介するとともに、「字は絵だろ」といった岡本が自由な感性で描いた「遊ぶ字」をご紹介します。また会期中には、体のさまざまな感覚をつかって作品を鑑賞する試みを行います。展示室内に「ことばで遊ぶ」「おと・リズムで遊ぶ」「において遊ぶ」「仮面で遊ぶ」「さわって遊ぶ」「遊ぶ字に挑戦!」といったテーマで、五感をつかって太郎作品に挑戦する体験コーナーを設置。いつでも体験することができます。</p>
内容 (展示)	<p><b>[展示構成]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○岡本太郎作品 絵画、彫刻、遊ぶ字 等 約100点</li> <li>○体験コーナー</li> </ul> <p><b>[展覧会関連イベント]</b></p> <p>「ことばで遊ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数字で短歌をつくろう／7月17日(月・祝) 14:00～16:00</li> <li>○爆発的な詩と漫画に挑戦!／8月11日(金・祝) 10:00～15:00</li> <li>○ことばで遊ぶ+トーク／10月1日(日) 14:00～16:00</li> </ul> <p>「おと・リズムで遊ぶ」／7月23日(日)、30日(日) 14:00～16:00</p> <p>「において遊ぶ」／8月6日(日) 13:30～15:30</p> <p>「仮面で遊ぶ」／9月3日(日) 10:00～15:00</p> <p>「太郎と遊ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太郎作品をさわって遊ぶ／8月13日(日)、9月10日(日) 13:00～16:00</li> <li>○TARO型作品鑑賞／9月17日(日) 14:00～15:30</li> </ul> <p>◆<b>会期中毎日開催</b></p> <p>企画展示室内 体験コーナーにて、「さわって遊ぶ」「おと・リズムで遊ぶ」「ことばで遊ぶ」「仮面で遊ぶ」「において遊ぶ」「遊ぶ字に挑戦!」を開催</p> <p>◆<b>その他のイベント</b></p> <p>「夏休みの宿題手伝います」ツアー／美術館探検ツアー／「TARO 缶バッジをつくろう」／「まだまだ芸術は爆発だ」ツアー／赤ちゃんツアー「あかちゃんと太郎」／ミュージアム・サロンのコンサート／ナイトミュージアム</p>

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	
来館者数：19,645人	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み期間にかかることもあり、7月、8月の小中学生の来館者数が多く、展示室で楽しみながら鑑賞していた様子が見られた。</li> <li>・体験コーナーでは、岡本太郎作品を題材に、音楽家や現代美術家、詩人、漫画家、NPO団体とのコラボレーションにより、会場でいつでも参加できる体験プログラムをつくることができ、大変好評だった。また会期中には様々なワークショップや鑑賞プログラムなど多くのイベントを開催することができた。</li> <li>・岡本太郎記念館より「遊ぶ字」の原画を数多くお借りすることができ、当館所蔵作品とともに漢字な</li> </ul>	

どを表現した岡本太郎の文字の作品をまとめて紹介することができた。  
・ 展覧会終了後に、会期中のイベントをまとめた報告集を刊行した。各所に配布するとともに、美術館HPで公開し、イベントの成果を今後につなげていきたい。

**【課題・反省等】**

会期が3ヶ月（開催日数80日）と長いため、もう少し来館者数が増えても良かったのではと思われる。「遊び」というタイトルだと、どうしても子供向けの企画と受け取られてしまうため、老若男女、広く一般の方にも楽しんでいただけることをもう少しアピールできれば良かった。

**【外部評価】 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]**

・ 岡本太郎と「遊び」の概念について考えられた展覧会となっていたが、子供向けにとらわれたことがおしい。  
・ 岡本太郎の場合「遊び／PLAY」という概念は、視覚から言語・哲学・思想へとどんどん広がっていく。企画者がそれを子供から大人まで楽しめるものへと広げたところは、大いに評価できる。さらに現在から振り返ってみると、それがサブカルチャー系アートの火つけ役としても機能したとも読めて興味が尽きない。  
・ 太郎が持っている可能性を、後の時代の人々が見出して様々なプログラムに仕組むことは、太郎美術館の特権といってもよい。イベントやワークショップを通して遊びの精神を伝えることは、太郎も願っていたことだと思う。  
・ 「遊び」というテーマを活かし、五感にアプローチする体験コーナーやワークショップを行うなど、展示に留まらない企画で、幅広い来館者層を獲得した。また、こうした企画で重要な、プロセスを含むドキュメンテーション（記録）がきちんと行われていた。

**評定**  
**A**

## 29年度事業報告

事業名	③ 「岡本太郎とメディア・アート 山口勝弘―受け継がれるもの」展について	
会期	2017年11月3日(金・祝)～2018年1月28日(日)	
趣旨	<p>アヴァンギャルドの一匹狼として、戦後日本の美術界にノンを突きつけた岡本太郎ですが、同時に分野を超えた新しい芸術の展開を求める活動の中では、そこに集う若い芸術家達に惜しみのない支援を欠かしませんでした。</p> <p>その精神を受け継ぎ、時代に先駆け独自の表現を確立していったアーティストである山口勝弘は、「実験工房」の時代からインタラクティブな関係をめざした「ビデオ・アート」や「環境芸術」など、アートとテクノロジー、そして社会との関わりを掘り下げました。新たな表現に挑んだ山口もまた、次世代を継ぐ多くのアーティストを世に送り出すことにより現代のメディア・アートという分野が確立しました。</p> <p>本展は、岡本太郎から山口勝弘、そして彼らの活動の先に開花したメディア・アートを担う現代アーティスト10人の作品を紹介するものです。戦後日本の現代美術の原点から始まり、アートとテクノロジーの融合をめざした新しい芸術分野の成立に至るメディア・アートの歴史的な連続性を概観していただければと思います。</p>	
展示・イベント	<p><u>岡本太郎</u> 「夜」、「森の掟」「憂愁」「クリマ」「美女と野獣」「黒い太陽」  <u>山口勝弘</u> 寄贈作品「黒い太陽 - 岡本太郎に捧ぐ -」「川崎」「フジツボ」、  <u>幸村真佐男</u> 「非語辞典」の岡本太郎語録バージョン  <u>高橋士郎</u> キネティック・アート「詩的平行四辺形―並行軸型」「ダントンの首」  <u>原田大三郎</u> VR作品 TARO360°  <u>寺井弘典</u> 岡本太郎作品「樹人」へのプロジェクションマッピング  <u>岩井俊雄</u> 時間層Ⅱ  <u>土佐信道</u> 明和電機製品シリーズより マスプロダクトとアートの接点  <u>森脇裕之</u> レイオグラフィ  <u>クリストフ・シャルル</u> 音響インスタレーション  <u>中島興</u> ビデオインスタレーション  <u>田中敬一</u> レーザー光線による空間インスタレーション  <u>山口勝弘</u>アーカイブロード</p> <p>関連イベント(予定)</p> <p>オペラ復活コンサートとアフタートーク 11月4日(土) 14:00～16:30  土佐信道(明和電機)ワークショップ 11月18日(土)  展覧会記念シンポジウム 11月4日(土)  伊藤尚未ハイテクアート電子回路ワークショップ 12月10日(日)、12月17日(日)  VRでつくろうキミだけのTAROミュージアム 12月23日(土)  「宇宙人東京に現る」上映会 1月14日(日)  松本俊夫映像上映とギャラリートーク 1月21日</p>	
内部評価(自己点検)		
[実施状況・成果等]	<p>企画展示室工事のため常設展示室のみを使い企画展を実施した初めての試みであった。企画展示室が使用できずギャラリーを無料展示としたことでより集客につながった。3か月間常設展示のみで運営するところ企画展を実施したことにより、例年と同じ集客を確保できた。</p>	
[課題・反省等]	<p>実行員会を組織し、委員会から申請した助成金(300万)が取れず総額700万で実施した。展示室を写真、動画撮影をフリーにし、SNS、インスタグラム等展覧会の話題性の拡散を狙った。展示室内の写真撮影を許可していくかを課題としたい。</p>	
[外部評価] 意見(評価できる点や課題など)	[A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]	

・常設展示の岡本太郎作品とメディアアートの作品が呼応し、企画展示室が閉じられていたが見応えがあり、同時に今後の常設展示室の使い方へも新しい視点が開けたのではないかと見込め、同時に今後の常設展示室の使い方へも新しい視点が開けたのではないかと見込め。

・思わず山口勝弘の寄贈作品「黒い太陽 - 岡本太郎に捧ぐ -」に目が向くが、それも岡本太郎のメディア・アートへの先見性があったこと。わが国のメディア・アート草創期から現在までの歩みを手際よく、また興味深くみせる優れた展示であった。

・岡本太郎は過激な言説の割には古典的な芸術家だと思うが、それに対して山口勝弘は常に新しい芸術の開発に関心を示した人である。戦後という新しい時代に新しい芸術を目指した二人の出会いに焦点を当てて、それに続くメディア・アーティストを取り上げたのは思い切った企画だと思う。

・岡本太郎から影響を受けた山口勝弘氏の作品、さらに山口氏とつながる現代アーティストの作品の競演が、岡本太郎の世界観を空間化した常設展示室を活用することで、より一層際立ち、魅力を増した。岡本氏は展示室内での撮影はフリーにされると思われるので、今後も情報拡散のための撮影については、積極的に検討して欲しい。

評定  
A



6  
29年度事業報告

事業名	④ 「第21回岡本太郎現代芸術賞」展
会期	2018年2月16日(金)～4月15日(日)
目標	「岡本太郎現代芸術賞」は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するため設立された。今年で21回目をむかえる本賞を通し、21世紀における芸術の新しい可能性を探り、意欲的な作品を紹介する。
内容	<p>本年度は、558組の応募があり、26組の作品が入選し、最終審査の結果、岡本太郎賞1名、岡本敏子賞1名、特別賞3名が選出された。</p> <p>岡本太郎賞：さいあくななちゃん 《芸術はロックンロールだ》</p> <p>岡本敏子賞：弓指寛治 《Oの慰霊》</p> <p>特別賞：市川ヂュン《白い鐘》 富安由真《In-between》 ユウキユキ《ユキテラス大神殿☆天岩戸伝説》</p> <p>入選：荒川 朋子 ichiko Funai、大野 修平、黒木 重雄、黒宮 菜菜、木暮 奈津子、近藤 祐史、笹田 晋平、塩見 真由、橋本 悠希、藤本 りか、文田 聖二、細沼 凌史、○△□(まるさんかくしかく)、村上 力、室井 悠輔、矢成 光生、横山 信人、田 芙希子、与那覇 俊、ワタリドリ計画</p> <p>関連イベントとして、作家自身によるギャラリー・トーク、②来場者による人気投票、③来場者から作家への「お手紙プロジェクト」を実施。</p>

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
<p>作家による事前搬入日に大雪に見舞われ、美術館への搬入経路の確保に苦心した。搬入は、若干の遅れを伴いながらも、無事、完了した。</p> <p>今年度は複雑なつくり込みのインスタレーション作品が多く、設営時間が長引いたが、すべての作品が設置完了でき、未完成作品がないように作家への協力を心掛けた。</p>
[課題・反省等]
<p>油圧式のリフターの老朽化に対する対策、および作家による展示作業の安全確保のための対応など、今後の課題である。</p>

[外部評価] 意見(評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]	<b>評定 B</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタレーション的作品が多く、アニメなどサブカルチャー風の作品が多かった。災害のあと、社会的な意味を持つ作品が多かったのからは変化が見られた。</li> <li>・審査員たちが口々に「さいあくななちゃん」のネーミングを評価していて興味深かった。そこに強く伺われるように、審査員とアーティストたちが一体となって、何とか既成美術界</li> </ul>	

<p>の枠組みを突破していこうというところは、ときに感動的でしたらあったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 太郎賞に期待する人は、出品者も観客も多いと思う。何か破天荒な美術作品を見てスッキリしたいと、今の世の中が思わせるからかもしれない。</li><li>・ 選抜された作品それぞれが、現代社会と自己と他者の関わり合いに向かい合い、表現になげていると感じられ、岡本太郎氏の精神を受け継ぐ表現者の発掘という機能が果たされていると感じる。</li></ul>	
--	--

## (2) 常設展

## 29年度事業報告

事業名	① 常設展 「岡本太郎—赤の衝動—」展
会期	2017年4月13日(木)から7月2日(日)まで
目標	<p>岡本太郎は「あなたの好きな色は何ですか?」と尋ねられると必ず「赤」が好きだと答えていました。</p> <p>絵画作品でも象徴的に使われている「赤」は岡本太郎にとって炎や太陽、血、そして命の色でした。</p> <p>抽象絵画をこころざしたパリ留学中から1980年代にいたるまで、岡本は赤の色彩をもちいた作品を数多く描いています。</p> <p>本展では、そんな岡本が生涯書き続けた「赤」の作品をご紹介します、岡本太郎が「赤」に込めた思いを感じてもらうことを目標としました。</p>
内容	<p><b>【油彩】</b> 《赤い顔》、《痛ましき腕》、《黒い太陽》、《風神》、《赤のアイコン》、《翔ぶ赤》 ほか</p> <p><b>【彫刻】</b> 《サカナ》、《太陽》、《未来を拓く》、《リボンの子》、《呼ぶA》、《呼ぶB》 ほか</p> <p><b>【陶器】</b> 《曙》、《風神》、《渾沌》、《ひらく》 ほか</p> <p>岡本太郎撮影メキシコの写真 ほか</p>
【実施状況・成果等】	
<p>前々から解説パネルの漢字にルビを振ってほしいという要望が上がっていたので、今回の常設展では解説パネルのすべての漢字にルビを振って小さい子にも読んでいただけるよう配慮した。その結果、いつも以上に解説パネルを読んでいただいているとの報告があった。</p>	
【課題・反省等】	
<p>岡本太郎は「赤」の色について様々な媒体で述べているが、時間が足りず全部を調査することができなかった。</p> <p>また、作品展示の工夫が足りなかったように思う。もう一工夫して来館者の興味をひくような展示にすべきだったと感じている。</p>	

## 29年度事業報告

事業名	常設展② 「岡本太郎と巴里」展
会期	2017年7月6日(木)～2017年10月22日(日)まで
目標	岡本太郎にとって、フランスのパリ市は、重要な都市の1つでした。1930年から1940年まで過ごしたパリで、世界中から集まった芸術家たちに揉まれながら、岡本は独自の個性を確立しました。そのため、秘書であり養女となった岡本敏子は、「岡本太郎は、戦前のパリで『岡本太郎』になった」と述べています。また、小説家であった母・岡本かの子の小説『巴里祭』の増刷版(1941年刊)のために、装丁画として、パリの風景画も描いています。その後も、岡本は、度々、パリを訪問し、芸術家としての活動を展開しました。本常設展では、岡本太郎のパリでの活躍を中心に展示構成し、東京とはちがった、パリでの「岡本太郎」をご紹介します。
内容	会期： 2017年7月6日(木)から10月22日(日)まで ◆主要出品作品： 岡本太郎作品： 《悲しき動物》《空間》《重工業》《森の掟》《クリマ》《青空》 《アドレッサン》《風神》《歓喜》《呼ぶ》《マラソン》《哄笑》《決別》《駄々っ子》《記念撮影》《子供の時間》ほか。 下郷羊雄《失題》1942年 アブストラクシオン＝クレアシオン版画集 クルト・セリグマン版画作品 岡本かの子『巴里祭』1941年版

## 内部評価(自己点検)

## 【実施状況・成果等】

パリ時代の岡本太郎と関連作家の住居地図を作成して掲示した。  
岡本かの子『巴里祭』(1941年版)は、跡見学園女子大学図書館よりご出品頂いた。  
1936年1月に下里羊雄が『名古屋新聞』紙上に紹介した岡本太郎のパリからの書簡に関する記事をパネル掲示した。  
イエール大学図書館所蔵の岡本太郎書簡の一部も和訳しパネル掲示した。

## 【課題・反省等】

同時期に開催されている夏期企画展「岡本太郎と遊ぶ」展が、主に夏期休業中の小中学生を中心に対象とした企画内容であることに鑑み、常設展では、中高生以上の年齢層の来場者が満足できるような内容を心がけた。そのため、小学生低学年以下の年齢層の来場者は、やや難しい印象を受けたと考えられる。

10  
29年度事業報告

事業名	常設展③ 「 敏子さん、岡本太郎のこと教えて。 」展
会期	2018年2月3日(土)から2018年4月15日(日)まで
目標	<p>岡本太郎の秘書・岡本敏子による仕事を紹介し、岡本太郎の活動をより多角的に見ることを目標とします。</p> <p>太郎は、戦後間もなく果敢な芸術活動を展開しましたが、敏子は、その最初期の1948年頃より太郎の秘書をつとめ、その後約50年間、太郎の身近で活動を支えました。</p> <p>芸術家岡本太郎という存在が、太郎本人だけではなく、敏子によっても大きく支えられていたことを、普段あまり展示されない貴重な資料などを通じて紹介します。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●太郎の代表作を敏子の言葉から紹介 《傷ましき腕》、《重工業》、《明日の神話》 など</li> <li>●敏子による仕事を紹介する資料の出品 岡本太郎の活動日誌、スクラップブック、『岡本太郎に乾杯』手稿など</li> <li>●写真スライドショー 太郎と敏子が取材旅行先などで撮影したスナップ写真のスライドショー上映</li> </ul>

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	<p>代表作を複数出品し、見ごたえのある展示になったと考えている。 同時開催中の TARO 賞は、太郎の死後に敏子の尽力により創設されたという経緯があるので、企画展示とも関連のある展示となっている。</p>
[課題・反省等]	<p>敏子の活動が「岡本太郎」の活動にどのような意味を持つのか、ギャラリートークなどで紹介する際にも、よりわかりやすい解説を考えていきたい。</p>

常設展全般についての評価

[外部評価] 意見(評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]	
<p>・「岡本太郎と赤」というストレートなテーマが楽しかった。「岡本太郎と巴里」は研究テーマとしても見応えがあり、「敏子さん～」はもう少し人となりをクローズアップすべきでなかったかと思う。</p> <p>・色や光は岡本太郎にとって、われわれが想像する以上に科学的なものであったのではないか。岡本太郎のバリ時代という知られざる部分光を当てようとする試みの嚆矢となるに違い</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">評定 A</p>

ない展示であった。そして敏子さんからみた太郎像は、やはりここいらでどうしても岡本敏子の実像に迫る作業が必要であることを証明していたように思う。

・常設展は一つのテーマに絞って作品も少なめにして、そのさわりを紹介する、小技の面白さがあるのだが、「敏子さん、・・・」のように、かえってもっと知りたいと思わせるようだと、逆効果にも思えるかもしれないが、その辺は想定内と考えてよいと思う。「赤の衝動」も、見慣れていた作品を改めて「赤」の視点から見直すことによって、強く印象づけられる経験を味わうことになった。

・平素から岡本太郎の作品研究をよく行っていることがわかる内容である。色、都市、岡本太郎を取り巻く人、という軸を立て、多様な視点から、岡本太郎の作品を読み解く展示が行われている。

## (3) パフォーマンス

## 29年度事業報告

事業名	「26人のパン人間の処刑」川崎市岡本太郎美術館 2017
開催日	2017年10月22日(日)
目標	川崎市出身で国際的に活躍する現代アーティスト・折元立身によるパフォーマンス「26人のパン人間の処刑」を企画展示室で行いました。折元さんと公募で集められた計26名が、パンを入れた箱を持って目かくしをされ、企画展示室に設置された処刑台にくくりつけられ処刑されるパフォーマンスを行いました。 人とのコミュニケーションを媒介に様々なパフォーマンスを行ってきた折元立身。今回、社会に鋭いメッセージを突きつけた岡本太郎の精神を継承する当館での開催にあたり、「暴力」をテーマとする処刑のパフォーマンスに挑みました。
内容	出 演： 折元立身、公募パフォーマー25名 日 時： 2017年10月22日(日) 14:00～16:30 会 場： 岡本太郎美術館 企画展示室 主 催： 川崎市岡本太郎美術館 料 金： 無料(要観覧料) 参加者数： パフォーマンス出演者25名、観覧者39名

## 内部評価(自己点検)

## 【実施状況・成果等】

折元立身による岡本太郎美術館での出演者を公募で募集する初めてのパフォーマンスを開催することができた。また、今回のパフォーマンスでは、多摩美術大学教授・榎木野衣氏の協力のもと、多摩美術大学学生ボランティア13名に準備・実施・撤収などの運営面に協力していただいた。

## 【課題・反省等】

本イベントのチラシの配布数が少なく広報の期間が短かったため、広報があまり行き届かなかったことと、開催当日に台風が近づいたため当日の来館者数が少なかった。パフォーマンスを見た方へのアンケートでは大変好評であったため、来館者数が少なかったことが悔やまれた。

## 【外部評価】意見(評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

・折元さんのパフォーマンスと岡本太郎とのつながりは無かったことが不思議だが、いい試みだと思う。  
・この作品は、折元立身の数あるフォーミング・アーツのなかでも、悲劇的状況を現出させるものとして際立っている。絵画や彫刻の展示会は、先年川崎市市民ミュージアムで行われているので、これだけでも大勢のボランティアの協力を得て、岡本館で実施できたことは幸いであった。  
・私自身は一度市民ミュージアムで見たことがあり、違うものを見たかったので今回のバージョンは見えていない。ただ公募という方法でやったことは評価できる。また折元立身については以前から関心を持っていた。

評価  
A

<p>・川崎市にゆかりのある現代アーティストである折本立身氏と共にパフォーマンスを行うという、貴重なアート体験を提供するプログラムとして評価できる。こうした機会があることを伝え、参加につなげる広報により一層力を入れたい。</p>	
--	--



## (4) 学術(対外)活動

### 29年度事業報告

事業名	学術(対外)活動
開催日	2017年度
目標	岡本太郎に関する作品および資料を集中的に所蔵する機関として、最新の研究情報の照会、ならびに岡本太郎芸術の魅力発信に努め、社会的役割を果たしていく。 学術団体における研究発表及び報告を、当館としてこれまで十分に行ってこなかった。 岡本太郎研究の活発化のために、逐次、学術団体等における研究発表を実施する。
内容	<p>1. 学会発表</p> <p>① 発表者：佐々木秀憲 テーマ：「パリ滞在時代(1930-40)の岡本太郎—《傷ましき腕》を中心に」 学会名：美学会(第68回美学会全国大会) 日時：2017年10月7日(土) 会場：國學院大學渋谷キャンパス</p> <p>② 発表者：佐々木秀憲 テーマ：「1951年第3回アンデパンダン展へのアメリカ人作家の出品—岡本太郎とクルト・セリグマン」 学会名：美学会(平成29年度第4回美学会東部会例会) 日時：2017年12月2日 会場：東京藝術大学</p> <p>③ 発表者：佐々木秀憲 テーマ：「《太陽の塔》の研究—ミルチャ・エリアーデの影響」 学会名：美術史学会(平成29年度美術史学会東支部3月例会) 日時：2018年3月24日(土) 会場：東京大学</p> <p>2. 学術団体役職 佐々木秀憲 役職名：ジャポニスム学会 理事 事務局長 任期：2017年2月から2019年2月まで</p> <p>3. 外部講演等： ① 講演者：佐々木秀憲 テーマ：「伝統とは創造すること」(TARO フェス 記念講演会) 日時：2017年12月16日(土) 会場：佐賀県有田町 焔の博記念堂</p>

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
岡本太郎に関する実証的な研究として、各分野の研究者より高く評価された。「パリ滞在時代(1930-40)の岡本太郎—《傷ましき腕》を中心に」においては、当該作品に関する初の実証的研究として評価された。また、「1951年第3回アンデパンダン展へのアメリカ人作家の出品—岡本太郎とクルト・セリグマン」においては、故瀬木真一氏の研究以後の画期的な研究として、主に戦後日本美術史に関する研究者より高く評価された。外部講演における「伝統とは創造すること」では、伝統産業の町・有田における良い刺激となった。
[課題・反省等]
研究活動の社会的還元の一環として、情報を発信できた。特に、有田町・炎の博記念堂におけるTAROフェスは定例化し、当該町としての新たな活動に向けての一助となりつつある。

[外部評価] 意見(評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会発表など、岡本太郎の学術的評価が深まるのは良いことだと思います。</li> <li>・パリ出張を一つの契機とした研究活動の発表と受け止めている。学芸員がこうした活動を行うことは、美術館本来の目的に合致しているばかりではなく、美術館と大学、関係学会の距離を縮めていくものとしてきわめて有効である。さらにいうならば、一担当者からスタートしたとしても、やがては学芸部全体で継続していった欲しい内容である。</li> <li>・これをきっかけに大いに展開していただきたい事業である。</li> <li>・学芸員が館内だけでなく、館外で研究成果を発表し、共有することは、教育普及、広報の観点からも非常に好ましいことと評価する。他の学芸員にもそのような機会が増えていくことを期待する。</li> </ul>	<b>評定</b> <b>A</b>

## 2. 資料収集・整理、調査

### 29年度事業報告

事業名	資料収集・整理、調査研究
目標	<p>岡本太郎に関連した作品資料の収集を継続的に行っていく。</p> <p>寄贈された岡本太郎関連の映像、写真資料、スクラップ記事、関連作家資料については、整理とデジタル化を行うとともに、それに付随した調査研究を昨年度に引き続いて推進する。</p> <p>収集に当たっては、岡本太郎関連の海外作家（クルト・セリグマンおよびセリグマンの弟子のロバート・マザウエルなど）をも視野に入れて検討したい。</p>
内容	<p>作品資料収集に関しては、岡本太郎や同時代の関連作家資料について調査を進め、購入寄贈も含めて検討していく。</p> <p>寄贈資料については、映像や写真、関連作家資料を中心に資料整理を進め、デジタル化を急ぐフィルムや映像については引き続き早めの対応を行っていく（今年度についても予算を前倒しで計上して執行予定）。</p>

#### 内部評価(自己点検)

##### [実施状況・成果等]

- ・岡本太郎関連作家である芥川沙織《顔》油彩・キャンパス（1954）1点を購入。
- ・岡本太郎記念財団より、第4次一式の寄贈を受けた。

##### [課題・反省等]

- ・例年にも増して受入れ資料のデータ登録がスムーズに進展した。

#### [外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

- ・資料整理、収集については、早くにしていくべきかと思えます。
- ・クルト・セリグマンおよびセリグマンの弟子のロバート・マザウエルなどの作品が、すぐさまコレクションできるとは考えにくい。しかし、常にそうした目的意識を持ってはじめて有効な作品へのアプローチも可能と考えたい。これは予算だけの問題ではないと思う。
- ・限られた予算の中で、岡本太郎研究につながる購入が行われている。また今後の研究に重要な資料の整理とデジタル化が進んでいる点も評価したい。

**評定  
B**

### 3. 作品の保存・修復、貸出

#### 29年度事業報告

事業名	作品の保存・修復、貸出
目標	所蔵作品・資料の状態把握に努め、当館での展示に支障が生じないよう貸出の調整を行う。作品・資料の保存・管理業務を定期的に行い、適切な処置を施し、館内の良好な環境の維持に努める。
内容	岡本太郎作品を中心に、当館で所蔵する作品・資料の保存及び作品の状態を考慮した作品・資料の貸出を行う。 作品調書整備、作品修復業務、くん蒸業務など作品の保存・管理業務を定期的に行い、適切に処置する。 環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など定期的に行い、館内の良好な環境を維持する。

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
<p>[作品貸出]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岡本太郎撮影写真（東北）20点を「岡本太郎の東北」展（会期:H29年7月1日～10月9日、会場:岡本太郎記念館）に貸出。</li> <li>岡本太郎《傷ましき腕》を「生命と美の物語 LIFE—楽園をもとめて」展（会期:H29年8月26日～11月5日、会場:富山県美術館）に貸出。</li> <li>岡本太郎作品35点を「岡本太郎展」（会期 H29年12月9日～H30年4月1日、会場：菅野美術館）に貸出中。</li> <li>岡本太郎撮影写真（弥生式土器）2点を「弥生の美—土器に宿る造形と意匠」展（会期:H30年3月10日～5月27日、会場:兵庫陶芸美術館）に貸出中。</li> <li>池田龍雄関連資料10点を「戦後美術の現在形 池田龍雄」展（会期:H30年4月26日～6月17日、会場:練馬区立美術館）に貸出予定。</li> <li>岡本太郎作品9点（油彩、版画を予定）を茨木市制70周年企画 川端康成生誕月記念企画展「川端康成と岡本太郎と万博と—激動の茨木—」（会期:H30年6月1日～6月30日、会場:茨木市立川端康成文学館）に貸出予定。</li> </ul> <p>[作品修復]</p> <p>《天に舞う》1974年 板に油彩、オリエンタル中村百貨店《光る大壁画》模型 1971年、《母の塔》模型 制作年不詳、《光る彫刻》1967年、《若い時計台》1966年、山口勝弘《黒い太陽—岡本太郎に捧ぐ》1996年、計6点</p> <p>[その他]</p> <p>環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など定期的に行った。くん蒸業務を3月下旬に行う予定。</p> <p>作品貸出について、今年度は宮城県で岡本太郎展が開催され、富山県美術館の開館記念展に岡本作品が出品されるなど、岡本作品の他県への認知度を高めたとともに、岡本撮影写真や池田龍雄氏の寄贈資料など幅広く貸出を行うことができた。</p>
[課題・反省等]
今年度の後半は岡本太郎作品の貸出が多く、常設展等との調整が必要であった。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	<b>評定</b>  <b>A</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>貸出と展示についてはむしろかしいと思いますが、貸出が進むのは良いことと思います。</li> <li>岡本太郎美術館の場合、貸出先は宮城県や富山県など全国におよび巡回展も少なくないことと思う。収蔵庫から出し入れの際の状態チェックは万全を期してもらいたい。</li> <li>常設展との調整、作品の保存に配慮しながら、全国の美術館へ多くの貸し出しが行われ、岡本太郎の作品により多くの人々が触れる機会を生み出している点が高く評価できる。</li> </ul>	

## 4. 普及企画

### 29年度事業報告

事業名	普及企画
会期	通年
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育と連携し、学校現場の実情、要望を踏まえた鑑賞プログラムによる教育普及活動の推進。</li> <li>・近隣の大学、専門学校、幼少中高等学校、地域商店街などと連携した事業を行い、地域との交流を高め美術館事業の活性化につなげる。</li> <li>・子どもから大人までが参加し、美術や岡本太郎芸術に親しむイベント、ワークショップを開催し、多くの人に開かれた美術館のイメージアップを図るとともに、地域に根ざした芸術活動の中心的役割を持つ。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校等の団体見学、校外授業のカリキュラムに応じたガイドや鑑賞活動を行う。</li> <li>・教育機関で活用する教材開発と貸し出し、活用例の紹介、出張授業を行う。</li> <li>・教育関係研究会、研修会等への招聘と参加を通じてより多くの教育機関と連携、協働した美術館活動を行う。</li> <li>・大学生、高校生をボランティアとして招聘して美術館イベントに参加するとともに、自らが考え、行動する自主性を重視した活動を行う。</li> <li>・幅広い層の来館者に対応した体験型イベントや年齢に応じた講座など来館者のニーズに沿ったイベント、ワークショップを行う。</li> <li>・教育普及を目的とした展覧会を開催する。</li> </ul>

#### 内部評価(自己点検)

##### [実施状況・成果等]

#### 《教育プログラム》(2018.2.1 現在)

##### 団体見学

学校や教育機関による団体での鑑賞学習や美術館を利用したグループ学習を学校と美術館が対象年齢や学習目的に応じて先生と美術館が話し合いながら鑑賞を行っている。

##### <29年度見学団体> (2018.2.1 現在)

幼稚園・保育園	3 団体	106 名
特別支援学校	5 団体	83 名
小学校	54 団体	6298 名
中学校	8 団体	775 名
高校・大学	16 団体	422 名
その他	8 団体	159 名

##### (28年度 2017.2.1)

幼稚園・保育園	3 団体	95 名
特別支援学校	7 団体	213 名
小・中学校	79 団体	7620 名
高校・大学	16 団体	486 名
その他	3 団体	57 名

##### 職場体験(13校)

中学・高校生に美術館の運営について施設の目的や内容を広く学んでもらうための活動である。学芸員、教育普及、施設管理、監視・受付、ミュージアムショップの仕事等を体験する。今年度は高校のインターシップとして4校(10名)生徒を受け入れた。美術館で様々な職種を体験することのよさを感じてもらっている。近隣中学校の利用がほとんどあるが、都立高校利用が1校あった。

##### 教材貸出

岡本太郎紹介ビデオ・DVD、作品をプリントしたもの(A5サイズ・A3)、岡本太郎の「遊ぶ字」をプリントしたものの貸し出している。下見時貸出教材の紹介を必ず行い、それらを活用した事前学習を勧めている。貸出数が増えていてアートカードは特に好評である。新たに自由鑑賞用パンフレットを作成し、その活用も紹介している。

##### 出張プログラム(11校)

美術館から遠い、校外活動は時間がかかる等、様々な理由で来館できない学校の鑑賞授業、学校イ

ベントのワークショップ<sup>®</sup>等として、担任・担当と相談しながら出張プログラムを行っている。以前は見学前の事前・事後学習、教室での鑑賞活動として行っていたが、教材の活用法等を紹介し担任自身がアートカード等を使って授業をしてもらうことを勧め、その成果が表れていると思われる。

## 《普及イベント》

### <TARO 鯉にいどむ！2017>

内 容 常設展示室の鑑賞、制作、仕上がった後母の塔前広場に展示、記念撮影、という流れで行った。岡本太郎の言葉通り、「大人も、年寄りも、みんな自分自身が空中に飛翔しているような思いで」「自分勝手に」つくっていた。展示するための作業以外は出来るだけ自由に自分のおもいのままにつくってほしいという意図があり、それがよかったというアンケートの感想もあった。ガイダンスをききながらの常設展鑑賞も普段経験できないことと好評であった。今年度は第20回TARO賞作家11名とメキシコ作家6名にもご協力いただき作家の作成した17匹の鯉も一緒に展示した。計81匹の鯉のぼりが完成した。

ワークショップ日程 2017年①4月22日(土)、②23日(日)、③29日(土) 13:00～16:00

作品展示日程 2016年4月29日(土)～5月7日(土)

場 所 創作アトリエ、常設展示室、母の塔前広場

料 金 無料(要観覧料)

参加者数 ①16名 ②30名 ③25名 計71名 電話にて事前申込

協力作家 TARO賞作家：あべゆか、井上裕起、繪幡彩子、岡野里香、楷の会 林 楷人、工藤千尋、黒木重雄、鈴木伸吾、関川耕嗣、照屋美優、富田美穂、福本歩、三宅感、MYU mikki、六無、(名前順)

### <まちをつくろうーぼくらのいこい島ー>

内 容 紙袋やストロー、ダンボールなど日常的に使われている素材を使い、企画展のテーマである建築に結び付けて、「まち」をつくってもらうワークショップを行った。開始する前に、太陽の塔やビルや家などのものをある程度配置しておき、そこから発想をつないでつくってもらえるように工夫をした。1年間の中でも、来館数の多いゴールデンウィークに華やかなイベントを打つことによって、さらなる来館を促すとともに、イベントをやっている美術館とイメージづけることを狙いとしている。また、展覧会のテーマでもある建築と結びつけるイベントを行うことで、展覧会へ興味を促進させた。

ワークショップ日程 2017年①5月5日(金・祝)、②6日(土) 13:00～16:00

作品展示日程 2017年5月5日(金・祝)～5月9日(火)

場 所 ギャラリースペース

料 金 無料

参加者数 期間中随時参加 申込不要

### <まっ・赤ちゃんツアー>

内 容 小さな子を連れて美術館に行くのはなかなか難しいと思われがちである。そこで親子と一緒に鑑賞を楽しみ、お子さんの反応を確かめながらお子さんの様子を通して作品をみてもらったり作品を介しての親子のコミュニケーションを図ったり小さな子に無理なく美術館の雰囲気を味わってもらって鑑賞会を行った。また子どもの鑑賞の手助けに回ってしまうのではなく親自身も鑑賞を楽しむことを目指した。

日 時 2017年6月7日(水) 10:30～11:30

場 所 ガイダンスホール～常設展示室

講 師 学芸 普及企画

料 金 要観覧料

参加者数 7組 事前電話申し込み+当日受付

### <中学生「夏休みの宿題手伝います」ツアー>

内 容 中学校では夏休みの課題として美術館に行って感想をかいたり新聞をつくったりする学校が多いため、美術館スタッフによるガイダンスを行い、より理解できたり気づいたり興味・関

心も高まることにつながった。

日 時 2017年①7月26日(水) ②27日(木) ③8月22日(火) ④23日(水) 各日 10:00～11:00  
場 所 常設展示室、企画展示室  
講 師 学芸 普及企画  
対 象 者 中学生  
料 金 無料  
参加者数 ①21名 ②12名 ③15名 ④11名 当日申込

#### <美術館探検ツアー>

内 容 小学高学年の子どもたちや中学生向けに、夏休みという時期を利用して素通りしてしまったり見落とししたりしがちな作品や展示空間を「探検まっぷ」をもとに主体的にめぐるとツアーを企画。「探検まっぷ」には、さまざまな問題などを記載し、展示室を回りながら問題に答えながら岡本太郎について、美術館の裏側について学べるよう工夫をこらした。展覧会をいつもとは違った角度から見ることで新しい気づきを得ることで、また普段は見ることのできないバックヤードも見学し美術館の役割の理解につながった。

日 時 2017年8月2日(水) 13:00～15:00  
場 所 ガイダンスホール、常設展示室、企画展示室、バックヤード  
講 師 学芸 普及企画  
対 象 者 小学4年生～中学生(保護者の同伴無)  
料 金 無料(要観覧料)  
参加者数 10名 当日申込

#### <TARO 缶バッジをつくろう>

内 容 100名限定(50名×2回)でオリジナル TARO 缶バッジをつくります。

日 時 2017年8月20日(日) ①11:00～ ②14:00～  
場 所 企画展示室  
講 師 普及企画  
対 象 者 どなたでも  
料 金 無料(要観覧料)  
参加者数 ①50名 ②50名 (先着順/整理券配布)

#### <プレミアム TARO ナイト>

内 容 8月のプレミアムフライデーに美術館の夜間開館を行うとともに、母の塔のライトアップ、母の塔前広場において BAR TARO を臨時開店し夏の夜をアートと美味しいお酒で楽しんで頂いた。展示室では、常設展示室にある“遊ぶ字”イベントを開催

日 時 2017年8月25日(金) 17:00～20:00  
場 所 母の塔広場  
対 象 者 どなたでも  
料 金 無料 入館者は要観覧料(2割引)  
参加者数 251名  
入 館 者 74名(17:00以降入館者)  
展示室イベント参加者 72名

#### <なりきり仮面をつくろう>

内 容 岡本太郎も制作したマスクを作るワークショップを行い、太郎の民族学の視点に触れてもらおうワークショップを考案し実施した。ワークショップ成果物を常設展示室内に展示することで、来館のきっかけづくりをする。

日 時 2017年9月3日(金) 10:00～15:00  
場 所 母の塔広場  
講 師 酒井貴史(美術作家)

対象者 18歳以上  
料金 1500円  
参加数 8名

#### <ナイトミュージアム>

内容 学芸員のギャラリートゥアーと普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する大人限定のイベント。常設展をガイドツアー形式で観覧後、バックヤードを見学した。その後、各々で展覧会をご覧いただき、カフェやショップでも自由にゆっくりとした時間を過ごしていただいた。

日時 2017年①9月9日(土) 17:15~20:00

場所 常設展示室、企画展示室、バックヤード、TAROカフェ

料金 1500円(入館料、ワンドリンク付き)

参加数 21名

#### <まだまだ情熱は爆発だツアー(敬老ツアー)>

内容 70歳以上の方がどなたか(お孫さん、夫婦、友人など)を誘ってきていただき一緒に作品鑑賞をしたり簡単な作品制作をしたりしながら気楽に楽しむツアーを、高齢者にも足を向けてもらうきっかけになるよう企画した。当日は太郎さん、敏子さんの年譜、そこに自分の今までの歩みとこれからについて記入できる欄を設けたワークシートを用意。参加人数が少なかったが、今後も広報やワークシートを改良しながら、太郎さんのメッセージを年配層につたえる企画を続けていきたい。

日時 2017年9月20日(水) 10:30~11:30

場所 常設展示室、企画展示室、ガイダンスホール

料金 無料(要観覧料)

参加数 2組

#### <第7回キッズTARO展—テーマ「あそぶ」—>

内容 7回目となりキッズTARO展が定着してきている。企画展「岡本太郎と遊ぶ」との関連を明確にし、岡本太郎の子どもに対する記述を整理し、パネル展示を同時に行った。見てくれた子ども・大人には、それぞれアンケートを実施する。それを掲示することによってお互いの感想を共有したり見方を広げられたのではないかと考える。

日時 2017年9月23日(土・祝)~10月22日(日) 17:15~20:00

場所 ギャラリースペース

#### 専修大学インターンシップ生企画<専修大学学生によるガイドツアー>

##### 内容①「太郎を壊せ！」

専修大学インターンシップの学生によるガイドツアー&ワークショップ、展示中の“顔”をテーマにした作品の学生視点の解説を行い、作品写真のコピーを破る・切る・組み合わせる・貼り合わせることで、そこから自分だけの顔を作るワークショップを行った。当日参加の家族連れも多く、賑わった企画となった。

日時 2017年10月8日(日) 14:00~15:30

場所 企画展示室・創作アトリエ

料金 無料

参加数 18名 (3名事前申込+15名当日申込)

##### 内容②「太郎を愛した女 ~敏子と“恋”してみない?~」

専修大学インターンシップの学生によるガイドツアー、岡本太郎の秘書であり養女、公私ともにパートナーであった岡本敏子さんの恋愛観をもとに、恋愛に悩める女性に贈るツアーを行った。学生らしい視点のツアー内容となった。

日時 2017年10月14日(土) ①13:00~ ②15:00~

場所 企画展示室

料金 無料

参加数 ①5名②5名 (事前申し込み+当日参加)



＜岡本太郎美術館×神奈川県×上平研究室（専修大学）プロジェクト 2017

「TARO を彩る」＞

内容 専修大学上平研究室の学生が、美術館職員監修のもとにワークショップ。TARO のアートと生田緑地の自然の力を使って、オリジナルのロールペンケースをデザイン。生田緑地内で採集した植物でロールペンケースの布を染め、岡本太郎の作品を観てから FABRIERE という樹脂顔料で装飾し、草木染めの自然な 地色に鮮やかな模様が映える世界でひとつだけのペンケースの制作。

日時 2017年10月15日（日）、11月5日（日） 10:00～16:00

場所 創作アトリエ

対象 小学生

料金 500円

専修大学インターンシップ生企画＜専修大学学生によるガイドツアー＞

内容①「太郎を壊せ！」

太郎さんの作品を壊して、そこから自分だけの顔を作るワークショップ。

日時 2017年10月8日（日） 14:00～15:30

場所 企画展示室・創作アトリエ

料金 無料

参加数 20名 先着順

内容②「太郎を愛した女 ～敏子と“恋”してみない？～」

岡本太郎の秘書であり養女、公私ともにパートナーであった岡本敏子さん。敏子さんの恋愛観をもとに、恋愛に悩める女性に贈るツアーです！

日時 2017年10月14日（土） 13:00～、15:00～

場所 企画展示室

料金 無料

参加数 20名 先着順

＜岡本太郎美術館×神奈川県×上平研究室（専修大学）プロジェクト 2017

「TARO を彩る」＞

内容 専修大学上平研究室の学生による、美術館職員監修のもとにワークショップ。TARO のアートと生田緑地の自然の力を使って、オリジナルのロールペンケースをデザインする。生田緑地内で採集した植物でロールペンケースの布を染め、岡本太郎の作品を観てから FABRIERE という樹脂顔料で装飾し、草木染めの自然な 地色に鮮やかな模様が映える世界でひとつだけのペンケースの制作をおこなった。参加した小学生や保護者は、生田緑地の植物から抽出した色に非常に興味をもち、染色した布に、岡本太郎作品を描き、華やかなペンケースに仕上がり、参加者の満足度の高い企画となった。

日時 2017年①10月15日（日）、②11月5日（日） 13:00～16:00

場所 創作アトリエ

対象 小学生

料金 500円

参加数 ①10名 ②10名

＜TARO トンボを秋の空に飛ばせ！＞

内容 生田緑地マルシェにて、太郎作品の紙トンボ方塗り絵を制作してもらい、カラフルなオリジナルトンボを生田緑地で遊び楽しんでもらうワークショップを企画。当日は、家族ずれの参加者が多く、賑わったイベントとなった。

日時 2017年11月12日（日） 10:00～11:30 13:30～16:00

場所 母の塔下

料金 100円

参加数 約300名

### <はいはい&よちよち美術館ツアー>

内 容 夏のイベントで行った“まっ赤ちゃんツアー”より、親子で一緒に鑑賞を楽しむツアーとして、毎月1回第2水曜（12・1月はお休み）に行うイベントとして開催。子育てをしている世代に知ってもらうため、近隣の保育園幼稚園、地域子育てセンター、にチラシを置いてもらい、周知をしている。10月11月と行い、乳幼児連れで美術館をより楽しめる充実した内容とするため、2018年2月以降は、事前申込のイベントとし、定員（10名）を設けた。引き続き美術館としての対応、内容を充実させるよう検討していきたい。

日 時 毎月1回第2（水）10:30～11:30 ①10月②11月③2月④3月（予定）に開催  
場 所 ガイダンスホール～常設展示室  
講 師 学芸 普及企画  
料 金 要観覧料  
参加者数 ①2組（当日参加） ②20組（当日参加）  
③ 11組（事前申し込み12組）④先着10組（事前電話申し込み）（予定）

### <Taro バースデーコンサート>（予定）

内容 岡本太郎の誕生日にあわせたコンサート。トランペット（熊谷仁士）フルート（常山こずえ）ピアノ（竹下久美）による演奏。

日時 2018年2月24日（土） 開演：13:30 演奏：14:00～15:00

場所 ギャラリースペース

料金 無料

参加数 名

### <ナイトミュージアム>（予定）

内容 学芸員のギャラリーツアーと普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する大人限定のイベント。常設展をガイドツアー形式で観覧後、バックヤードを見学する。

日時 2017年3月10日（土） 17:15～20:00

場所 常設展示室、企画展示室、バックヤード、TARO カフェ

料金 1500円（入館料、ワンドリンク付き）

参加数 名

### <宮前ミュージックミュージアム>（予定）

内容 弦楽トリオによる演奏によるコンサートのほか、宮前カルタやフォトコンテスト入賞作品の展示など、宮前区にちなんだイベントを開催。音楽とアートの一日を楽しめる企画としている。

日時 2018年3月21日（水・祝） :～:00

場所 ギャラリースペース

料金 無料

参加数 名

### [課題・反省等]

・今年度は、春に乳幼児向けのツアーを試験的に行い、その結果を踏まえて実施方法を検討しながら、定期的な来館者サービスとして定着させることができた。緑地内の他施設との連携、乳幼児向けの館内整備なども行いながら、来年度も引き続き行う予定である。また今年度初めて行った、夏季休暇中の中学生向けのツアーは、需要があることが手ごたえとして感じられた。

・大人向けのイベントとして、「ナイトミュージアム」「大人のための TARO 塗り絵」は、近年の定番イベントとして開催したほか、プレミアムタローナイトなど、時流にあわせたイベントも行うことができた。シニア層へ向けたイベントも、内容やタイトルなど今後も検討を重ねて試みていきたい。

・専修大学のゼミやインターンシップの受け入れなど、今年度もさまざまな形で大学との連携事業を展開できた。来年度はよりよい形での受け入れ・連携を深めていきたい。

・学校団体の受け入れについては、スタッフの体制等をカバーするための工夫として、多層的な受け入れ方式の検討をより具体的に行い、実施する学校の増加を図りたい。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

- ・ナイトミュージアムなど、意欲的な取り組みがされている。
- ・生田緑地の活用という視点がユニークである。こうした環境だからこそ「TARO 鯉にいどむ」というワークショップも生きてくるのだろう。意識の高い先進的な学校との連携で体制を固め、徐々に普通の学校へと広げて行っていただきたい。
- ・教育普及プログラムを、岡本太郎の精神を多角的に伝えるための重要なメディアとしてとらえ、非常に幅広い対象者のニーズや関心を探りながら、積極的に質・量ともに充実した活動を行っている点を高く評価する。乳幼児を対象としたプログラムを定期的に行っている点も、未来の来館者育成の視点から、非常に重要である。学校のプログラムに参加する生徒、学生に広報的役割を担ってもらい、彼らの家族の来館につなげる方策も考えられると良い。

評定  
A

## 5. 広報活動

### 29年度事業報告

事業名	広報活動
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展やイベント毎の特色を活かし、より効果的な広報の拡大を目指す。</li> <li>・生田緑地施設や地域等と連携し、さらなる広報拡大を行う。</li> <li>・インターネットを活用した迅速な広報、告知を行う。</li> </ul>
内容	<p>有料広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代々木上原駅看板</li> <li>・川崎市立図書館レシート表面広告（宮前図書館、多摩図書館）</li> <li>・広報誌「TARO ニュース」作成</li> </ul> <p>無料広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小田急線等へのポスター駅貼り、川崎駅地下街アゼリア展示コーナー、川崎駅アゼリアビジョン、市政だより、かわさきアートニュース、教育だより、生涯学習情報、TVK「LOVEかわさき」など、庁内連携による広報、JR 登戸駅電光掲示板、向ヶ丘遊園駅生田緑地看板</li> <li>・プレスリリースによる新聞雑誌への告知</li> <li>・会期中に会場内のイメージを加えたプレスリリースを主要マスコミへ再発送</li> <li>・展覧会ちらし・ポスターを他美術館へ配布・掲示</li> <li>・地域交通機関との連携による広報</li> <li>・インターネット活用による広報（美術館 HP、生田緑地 HP、アート・イベント情報ページの登録、配信、各種 SNS）</li> <li>・地域の回覧板を活用した「展覧会」、「イベント」の告知</li> <li>・プレス内覧会の実施</li> </ul>

内部評価(自己点検)
【実施状況・成果等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、会期前のプレスリリースだけでなく、会期中に会場内のイメージ画像と図録を主要マスコミへ再発送しました。チラシや作品画像だけでなく会場内の雰囲気伝えることができ、取材依頼の増加につながりました。</li> <li>・「岡本太郎と遊ぶ」展ではファミリー向けやおでかけ情報誌等へ、「メディアアート」展では関連媒体へプレスリリースの発送を行いました。あらゆる分野からの関心をひき、「Numero」や「リンネル」といった女性誌や、写真家専門誌にも取り上げていただきました。</li> <li>・常設展独自の PR も図り、企画展と2つの方向で興味を引く広報に努めました。</li> </ul>
【課題・反省等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、周辺地域、また首都圏への認知度向上へ向けて WEB での告知を強化し、集客へつなげていきたいと思えます。</li> </ul>

<p>[外部評価] 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真撮影など、インターネット活用については、今後の課題として残ると思う。</li> <li>・さまざまな媒体を通し、積極的に広報を行っている点が評価できる。新たな来館者層となる、海外、特にアジアからの来館者獲得に向けた広報や、多くの参加者がある教育普及と連動した広報を展開してほしい。</li> </ul>	<p><b>評定</b> <b>B</b></p>
---	-------------------------------

## 6 施設・設備の整備

### 29年度事業報告

事業名	施設・設備の整備
目標	開館から18年を経過し、建物・設備が老朽化しており、施設の長寿命化及び作品の保全、市民の施設の施設利用の利便性の向上、安全・安心の確保を図るため施設の計画的な更新・補修を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーター1号機・2号機・3号機補修工事 設置から18年を経過し、経過年数による定期的な部品交換（メインワイヤーロープ等の交換）が必要なため補修工事を行う。また、2号機については、環境的な問題（水・湿気）による影響（錆）により動作不良がみられ、部品の交換が必要なため補修工事を行う。</li> <li>・その他補修工事（緊急対応） 変電所設備補修工事（高圧真空遮断機1台の取替） スプリンクラー消火設備補修工事等</li> <li>・企画展示室天井等補修工事</li> </ul>

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーター1号機・2号機・3号機補修工事、変電所設備補修工事（高圧真空遮断機1台の取替）、スプリンクラー消火設備補修工事、エントランス硝子屋根補修工事、企画展示室天井等補修工事を実施。</li> </ul>
[課題・反省等]
今後も補修工事等は年々増加見込みで、かつ設備等の更新工事も必要となってくるため計画的な修繕・更新工事計画が必要となる。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	<b>評定 B</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性は確保されなければならないので、修繕、設備の補強は大変ですが必須に思います。</li> <li>・今年の冬はやや異常な寒さに見舞われ、各地で事故が多発した。そんなこともあって、早目早目の対策が望まれる。</li> <li>・美術館活動を支えるために必要な施設・設備の整備が、計画通り行われていることを評価する。</li> </ul>	